

古代蝦夷の聖地

下永林遺跡

下永林遺跡は、盛岡市津志田・三本柳地内にあります。いくつかの塚があった場所として大道西古墳群とよばれ、80年以上前に畑から蕨手刀という刀が出土したことで知られていました。

新しいまちづくりをすることになり、その工事で地中に残っている遺跡がこわれる前に発掘調査をおこなったところ、1300～1200年前(奈良～平安時代)のたくさんの古墳の跡がみつかりました。

そのころに近くに住んでいた人たちにとって、特別な場所だったことがわかりました。

蕨手刀 わらびてとう

(市指定文化財・大道西古墳(下永林遺跡)出土・個人蔵)

昭和10年頃、畑から出土したという鉄の刀。

蕨手刀とは、持つところが蕨の芽のようにまわっている約1350～1200年前ころの刀です。すべて鉄でつくられ、持つ部分には紐や布をまいて使っていたようです。全国から250点以上見つっていますが、多くは東北地方から見つっています。



(盛岡市遺跡の学び館に展示中)



みずいろの部分古墳をかこんでいた溝です。



直径3～10mほどの丸い溝の中に土を盛りあげた古墳が重なり合わず40基もありました。



土器出土の様子 溝の中から古墳におそなえされていた土器が見つかりました。転がりおちて、われたのでしょうか。



当時の貴重品ガラスのビーズもありました。



どこうぼ
土坑墓



土坑墓の実測図



おそなえされていた土器 われて見つかった土器をくっつけました。この土器に何をいれておそなえしていたのでしょうか。底に穴があいている甕がありました。おそなえするために穴をあけるおまじないをしてから、古墳にそなえられたものです。



直刀出土状況

地面をほっただけのお墓(土坑墓)もありました。土の成分により骨や木の棺はとけてなくなり、長い年月残ることは、ほとんどありません。



上空から見た下永林遺跡

丸くみえるのが古墳（墳墓・円形周溝ともいわれる）の跡です。

およそ 100m四方の場所に密集しています。

1200 年ほど前は、丸くほられた溝の中に土を盛りあげた小山のような古墳が、ぜんぶで 40 基ほどありました。古墳は地域のリーダーや本家のお父さんなどが亡くなった時に、とてもいねいに葬った特別なお墓です。

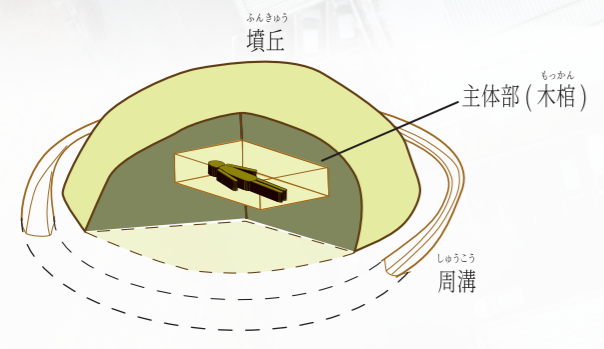
しかし長い年月がたち、おまいりする人もいなくなり、雨や雪で土が流れ、後の人々が畑や家を作ったため、古墳はくずれてしまいました。このために畑から蕨手刀が出土し、土を盛りあげた塚があったという伝えが残ったのでしょう。

発掘調査では、地中に残っていた古墳をかこんだ溝やそこに流れ込んだおそなえものなどがみつかりました。

この場所には、奈良～平安時代をとおしてムラが作られることはありませんでした。

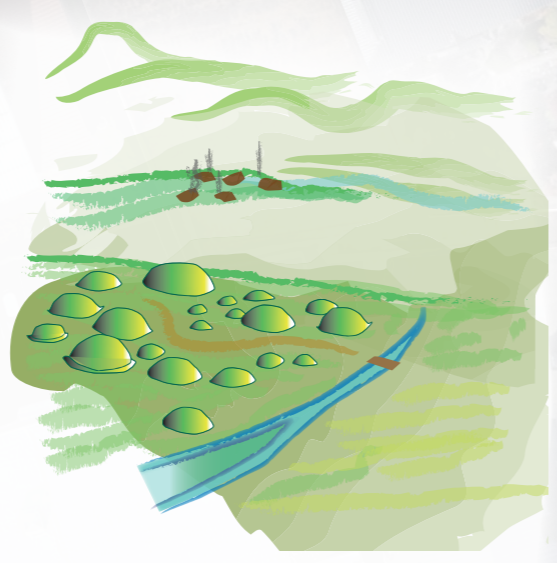
リーダーや先祖たちが眠る大切な場所だったのです。

- ① 周辺より小高いこの場所をえらんで古墳が作られたようです。葬られた人は周辺のムラのリーダーです。
- ② 古墳がある場所を、おおきくかこむようにのびる溝がありました。先祖が眠る大切な場所とわかるような目印にしたのかもしれない。
- ③ 古墳の溝を上から見ると、Cと（）の2種類があります。溝がとぎれたところはお参りやおそなえ物をおく場所だったのでしょう。
- ④ 溝の途切れたところの前に、そこをささぎるように短い溝がほられたものもあります。
- ⑤ 古墳の北側には、土坑墓がありました。どこにどんなお墓を作るのか、場所を区別してました。



【平安時代初期頃の蝦夷の古墳想像断面図】

直径 3～10m ほどに墳丘を作り、木の棺に遺体と副葬品（一緒に棺に入れる物）を入れ、墳丘内に埋葬しました。周囲には溝（周溝）が掘られます。



【南西から見た復元想像図】

遠くに山々を望み、奥には百目木や西鹿渡のムラが見えます。手前には古墳の場所を区画する溝があります。大小様々な古墳は、重なり合うことなく密集しています。

②古墳群の北縁→
を区画する溝

①周田よりやや高い
ところにあります。

⑤古墳と別な場所に
土坑墓があります。

③古墳を囲む溝は
C・（）の2種類

③（）の形

③Cの形

③（）の形

③Cの形

③Cの形

↑④途切れたところの前
に掘られた短い溝

②古墳群の南縁
を区画する溝

鹿妻堰は江戸時代に雫石川の水を水田に引くために作られた水路。今もほぼ同じ場所を水が流れ、盛岡南部の水田をうるおしています。

鹿妻堰水路

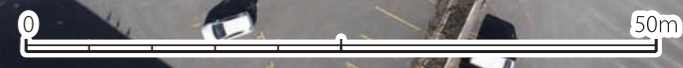
至 国道4号線
岩手飯岡駅入口交差点

見前中学校

盛岡南消防署

至 JR岩手飯岡駅

※発掘調査時の空中写真を合成したものです。



下永林遺跡は古代蝦夷の聖地だった

○岩手の古代文化 古墳群

お葬式の方法は家族や地域が代々共有する文化です。

奈良～平安時代の岩手県域の人々は、ムラのリーダーや本家の父が亡くなると、古墳（墳墓）に葬りました。古墳には、武器や農具などの鉄製品、玉類なども納められ、土器をそなえました。この風習は 7 世紀後半頃から 9 世紀半ば頃まで続いたようです。この頃に古墳を作る風習は、全国的にほとんどみられず、岩手以北の文化でした。

○下永林遺跡の古墳群がつくられた社会

奈良～平安時代の北東北の人々は「蝦夷（えみし）」と呼ばれ、天皇を中心とした国の外でした。蝦夷はムラごとに家父長的な武力を持ったリーダーに率いられた、血縁にもとづく「部族社会」で、ムラごとに政府と交流したり敵対したりし、様々だったようです。

政府は、蝦夷も国の範囲に組みこむため「城柵」という役所をつくりました。城柵には兵を配置し、蝦夷を招待し酒宴でもてなし仲間にする儀式などが行われました。

市内下太田にある国史跡「志波城跡」は、延暦 22（西暦 803）年に桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂が造営した古代陸奥国最北最大級規模の城柵跡です。坂上田村麻呂は国の東北経営の最高責任者でした。彼は、以

前の東北南部や関東からの移民を住まわせ蝦夷を同化する方法ではなく、蝦夷のムラや文化はそのままにリーダーとともに政府の統治の仲間にしようとしたようです。

そのため、下永林遺跡の古墳も志波城造営後も作られ続け、8 世紀後半～9 世紀半ばまでの間に 40 基も作られたでしょう。

○下永林遺跡の古墳群

下永林遺跡の古墳に葬られた人は、百目木・西鹿渡・高櫓 A・荒屋遺跡など、近くでみつかったムラのリーダーなどと考えられます。このようなリーダーは各地にいました。やがてその中から、政府から村長に任命される人や城柵で働き力を持つ人がでてきました。これが後に岩手県域で権力を握った安倍氏や秋田県域の清原氏、そして平泉を拠点に東北を治めた奥州藤原氏の源になったと考えられます。下永林遺跡の古墳群は、奥州藤原氏に続く地域の蝦夷勢力の存在を物語る貴重なものと言えます。

現地に遺構は無くなりますが、この発掘調査成果は調査報告書にまとめ、文化財の記録として保存します。

区画整理された新しい街が、実は約 1200 年前の人達の聖なる場所だったことを知り、この土地の歴史を語り継いで欲しいものです。

○盛岡周辺の主な蝦夷の墳墓（末期古墳）

・墳丘が現存するもの

- 市史跡 高館古墳群（上飯岡・8 世紀）
- 県史跡 藤沢えぞ森古墳群（矢巾町藤沢・7 世紀後半）

・現在は地表から見えないもの

- 永井古墳群（玉山永井・8 世紀後半～9 世紀）
- 上田蝦夷森古墳群（黒石野・7～8 世紀）
- 太田蝦夷森古墳群（上太田・8 世紀）
- 宿田遺跡（北夕顔瀬町・8 世紀）
- 飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡（飯岡新田・8～9 世紀）



高館古墳



宿田遺跡出土 鉄刀



上田蝦夷森古墳出土 冑



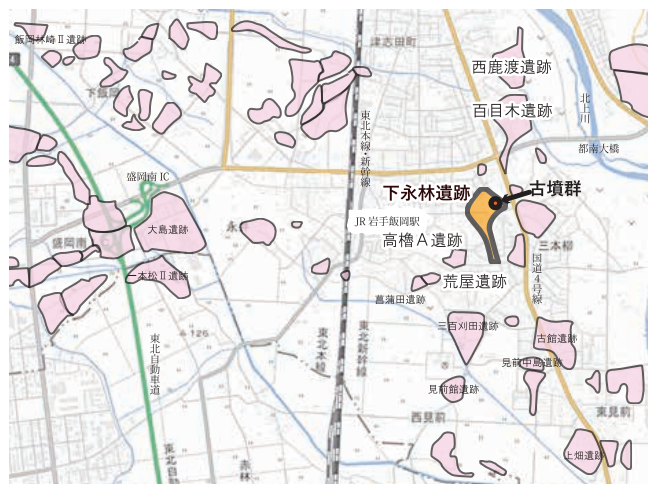
太田蝦夷森古墳出土 勾玉



太田蝦夷森古墳出土 ガラス玉



太田蝦夷森古墳出土 帯金具



下永林遺跡の位置と周辺の遺跡分布図

下永林遺跡は、盛岡市の都南中央第三地区土地区画整理事業に伴い、文化財保護法にもとづき 2016 年度から発掘調査を行いました。このパンフレットは、調査成果の概要を報告するために作成しました。

下永林遺跡ガイドパンフレット

2023 年 3 月 27 日

編集・発行：盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1

電話 019-635-6600